

5. 神明地域での代表的な取り組み(要旨)

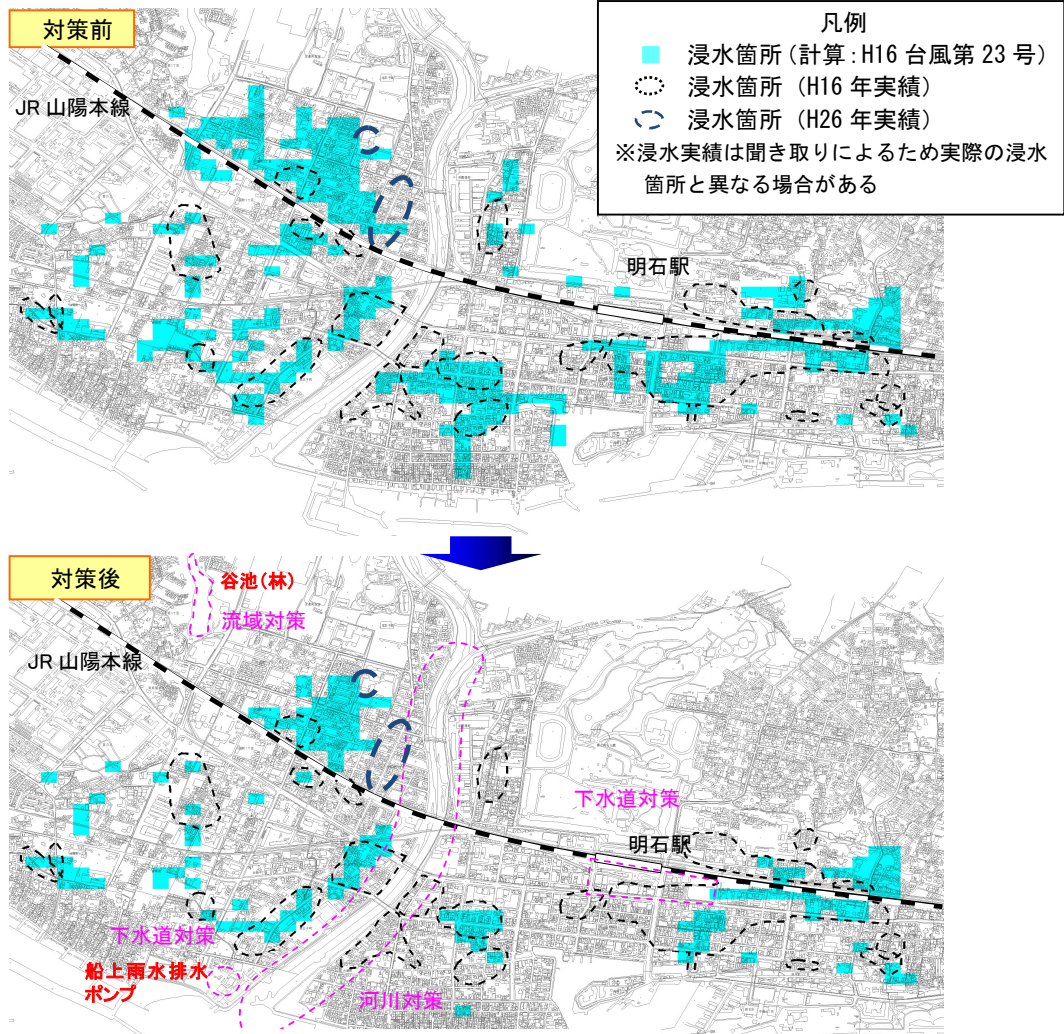
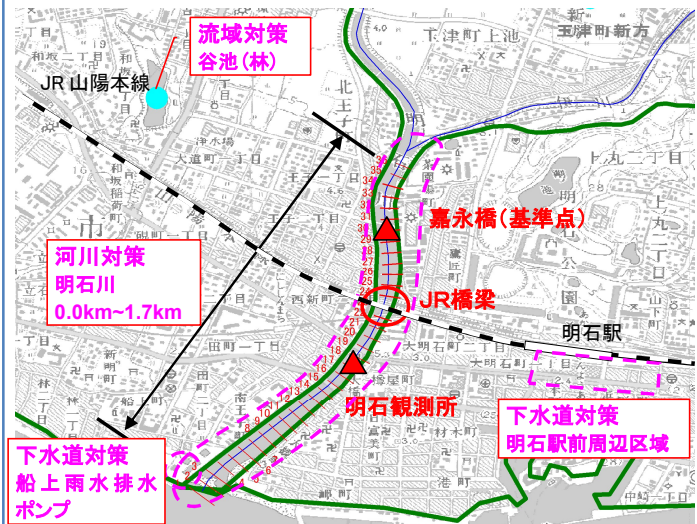
(1) 河川下水道対策+流域対策

定量的分析（明石川流域で試算）

【対策内容】

- ・河川対策：整備予定の 0.0～1.7km 区間について、河川整備計画にもとづく改修(拡幅+掘削)を実施した場合<整備中>
- ・下水道対策：明石駅前周辺区域の下水道整備を実施した場合<整備中>
：船上雨水排水ポンプの排水量を 462m³/分から 768m³/分に増強<対策済み>
- ・流域対策：谷池(林)の貯水位を 1m 下げた場合<整備中>

効果の試算



対策前後の浸水範囲

(2) 流域対策(ため池)

◇明石市では、市が中心となり浸水対策効果が高いため池を選定し、関係者の同意を得たところから、緊急放流施設や洪水吐等の整備を実施中

- ・事前放流の対応：取水用の樋を改修し、直接緊急放流できる施設を整備（写真①）
- ・治水転用の対応：洪水吐に切欠き入れる等改修し、常時の水位を下げることで治水容量を確保（写真②）



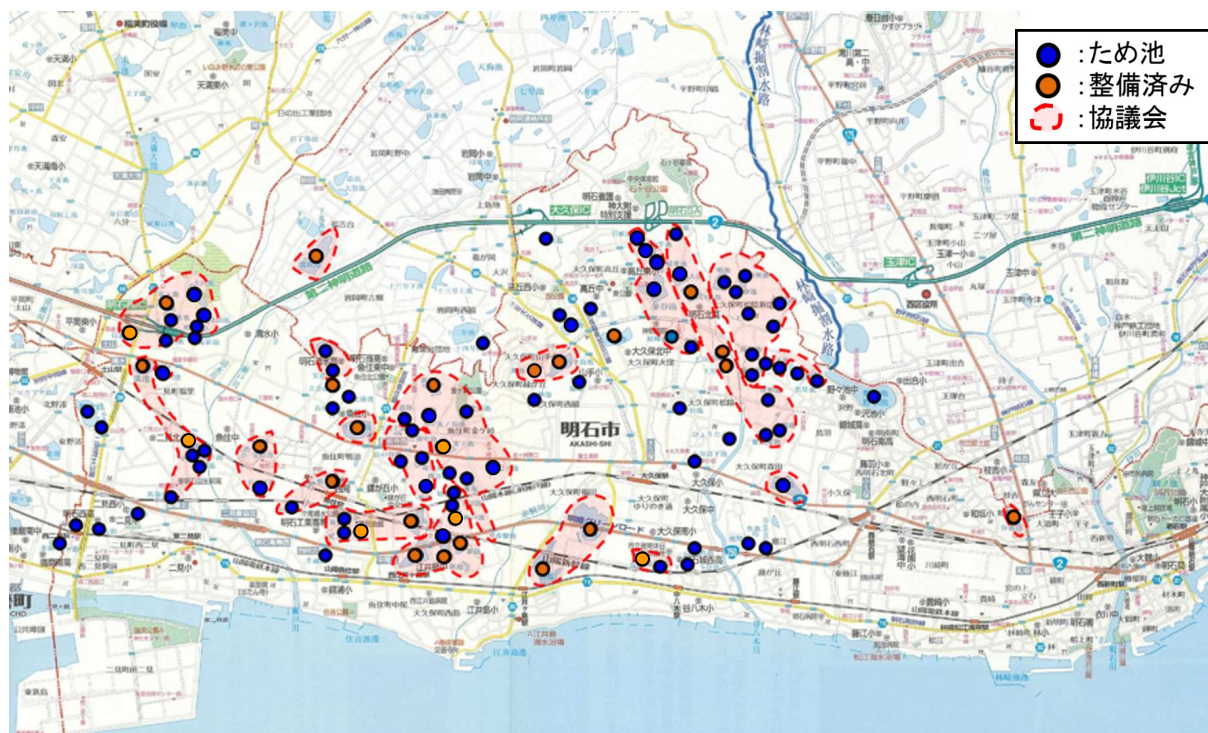
写真①



写真②

明石市内のため池整備箇所(市・県・その他事業含む)

新池(金ヶ崎) 鴨谷池(鴨谷) 長谷池(中尾) 新池(西島) 皿池(東二見) 等
 <整備済み 27 池>
 <合計 38 池>



ため池の位置図